

情報技術(IT)にみる略語の構成

井上 弘行

倉敷芸術科学大学図書館

(2001年9月28日 受理)

はじめに

情報技術という言葉の出現が、ここに来て最近盛んである。これを英文字で2文字に略して、IT (Information Technology) [aiti:] と言っている。この例を持ち出すまでもなく、イニシアリズムとなる語は、数多くある。「『DC』にみる情報技術(IT)の3文字略語」の附表に見るとおりである¹⁾。前回の拙論では、この3文字略語に限ってその話題を取り上げた。本論では、それに限定せず2文字、および4文字以上についても情報技術方面の略語文字を探ってみたい。用いる資料は、同じく『DC』である。

また、近年、インターネットのリンク模様を表出するような略語(BtoB)が新出してきている。あるいは、「電子的的」という形容で語の先頭に「e」を冠した接頭辞の略語が目につく。こうした新しいものが、communicationの表現力としてどういように活用されているのか、その辺りも探ってみたい。

併せて、その後の新しい3文字略語も押さえておく。

1. ITの定義

本論に進む前に、ITの定義を試みる。が、これに対する定かな試みはない。1つの例として次のものを上げる。

Information technology is the term used to describe technologies that enable us to record, store, process, retrieve, transmit and receive information²⁾.

これによると、Information Technology (IT) は、

- | | | |
|---|---|-------------|
| <ul style="list-style-type: none"> • record • store • process • retrieve • transmit • receive | } | information |
|---|---|-------------|

を扱うものに与える専門用語だ、としている。IT そのものは、「情報技術」でその含むところの意は、

“理論を実際に役立つようなものにする”

というように受け止められる。

技術には、“あの人はいい技術を持っている”とか“いい技術力を有している会社”とかのような使い方がなされる。これらは、皆、「ものを作る技術」や「何かを創作するノウハウ」を指している。いま頭に「情報」がつき、また先の説明には、informationを何々する、と述べている。そして、そのことを実現して来たのはcomputerを中心にした電子関連のtechnologyとなる。また、先の文献²⁾も指摘しているように、それには近年目覚ましい発展を成してきた通信 (telecommunication) 技術も含まれる。

改めて眺めれば、これらを基礎にして活用されているインターネット技術なども包含してくることになろう。以上のようなことを踏まえて、IT に対し次のような捉え方をする。

“コンピュータと通信による情報処理”

実際には、電気エネルギーが無ければ、機能しないことはもとよりであり、そういったものも含めて広義には捉えられてよい。

ITの意味を確認する上で、国連レポート、“Report of the high-level panel of experts on information and communication technology”から、次のことを紹介する³⁾。第I項「The challenge」で、The world is undergoing a revolution in information and communication technologies (ICT) that...

と述べている。そのICTの有益 (beneficial) なものとして、下記の例が取り上げられている。これは、情報技術を押し量る上でヒントとなる。

- Voting by computer had alleviated scepticism about the possibility of fraud in elections ;
- Important improvements in the delivery of services such as health care, including through the application of telemedicine ;

新しい技術が生まれると、それを表現する術語が要る。インターネットが普及し、Java言語の活躍が賑わい、「アプレット」は、その最たるものである。ホームページから呼び込んで自端末装置上で働く小さなプログラムと言っても構わない。十分に知識ベースが行き亘っていない状況下では、その言葉が必要になる度に細々とした説明ならびに形容を余儀なくされる。それでもいいが、毎回、同様のことを反復するのでは効率がよくない。そこで一言で表現できる言葉が求められる。前回の拙論では3文字略語を取り上げたが、それと同様に略語にしてしまう現象という点では、今回の場合もこの線上にあるといえる。

2. データ収集の資料

対象データ 『DC: Data Communication』 電波新聞社発行
 収集範囲 R₁ 2000. 7. 3 第637号~2001. 6. 25 第685号 (1年間:49週)
 収集範囲 R₂ 但し, 3文字に限定しない略語については,
 2001. 4. 2 第674号~2001. 6. 25 第685号 (12週分)
 略語では商品名は含まないが, 話題を補完する意味において一部対象に含まれる。

3. 略語の種類

一言に略語と言っても, その種類は多様である。単純に考えれば, 何か元になる語があり, それが何らかの形に変容しその一部が略される。この略され方に各種のものがある。それを整理してみたい (表1)。

表1 略語の分類

カテゴリ	サブカテゴリ	例
I 語の頭字相当をもつて構成	I ₁ 語の頭字1字のみ I ₂ 語の頭字連続 I ₃ 変則頭字 (一部中途文字)	Central Processing Unit : CPU telephone : tel eXtensible Markup Language : XML
II 置換	II ₁ 数字置換 (I ₁ の行為含む) II ₂ 2文字目以下→. II ₃ 省略パーツ→'	Business to Consumer : B2C Answer : A. 2001 : '01
III 特殊文字付加 (省略行為含む)	III ₁ 特殊記号挿入 III ₂ 頭字と尾字+.	Broad Satellite : B / S Mister : Mr.
IV いわゆる頭字語	(acronym)	radio detecting and randing : radar
V 語の一部による短縮語	V ₁ clipped word (準 I ₂) V ₂ mnemonic code	ソフトウェア : ソフト Japan : JPN
VI 記号	VI ₁ 単位 VI ₂ 商標類 VI ₃ 特殊記号1字のみ	meter : m 著作権 : © 郵便番号 : 〒
VII 表記代替略	ローマ字表記	平成 (HEISEI) : H

特定の仲間内で使われる集団語 (jargon) の一部に, 例えばオフィス言葉として「レラ:連絡」とか「ヨロ:よろしく」とかの簡略語があるとも聞く。分類の基準により, こうしたものも含めて, これら以外の分け方もいろいろ考えられるであろう。

高度なデータ通信で用いられる暗号化, データ圧縮なども量を縮める意では, 「簡略化」の形態といえる。これを「語」として捉えるには無理があり, ここでは省略した。また, 情報処理の世界で一般的なコード化も一種の簡便法ではあるが, 指摘に止める。

4. 略語の仲間

略語で典型的なのは、initialismと呼ばれるもので、CPU (Central Processing Unit) のようなものである。前回¹⁾取り上げたのも、これが中心であった。そこでは、3文字からなる頭字略語を扱った。

イニシアリズムになる略語は、2文字でも存在する。表2のとおりである。データを拾っていると、2文字構成ということで1U、2Gのようなものにも出会った。前者は単位で、後者はGenerationを指している。かつての3K (Kitsui, Kitanai, Kiken)、いまでも生きている3R (Reading+writing+arithmetic) などとは、また違う。ついでに言うと、(Reduce, Reuse, Recycle) は比較的新しい。これらは、話題の途中で予告なしに挟まれると、瞬時の判断は困難である。言葉に対する共通認識が欠かせない。市民権を得て一般語に同化する迄には時間を要し、略語の機能を発揮仕切れないでいることもある。

表2 イニシアリズム (範囲R_b)

略語	語	略語	語	略語	語
1U	44.45mm, (0.2794mm)	EC	Electronic Commerce	MO	Magneto Optics
2G	2Generation	EI	Enterprize Integration	OA	Office Automation
BS	Braodcasting Satellite	GW	Group Ware	OS	Operating System
CE	Customer Enginner	IA	Information Appliance	SE	System Engineer
CF	Compact Flash	IP	Internet Protocol	SI	System Intergrater
CI	Corporated Identity	IX	Internet eXchange	WS	Work Station
CS	Customer Satisfaction	KM	Knowledge Management	es	ebusiness service
DM	Direct Mail	LD	Laser Diode	PC	Personal Computer

収集範囲をR_aに広げると、さらに表3のようなものが上がってくる。

表3 イニシアリズム (範囲R_a)

略語	語	略語	語	略語	語
3D	three Dimension	CD	Compact Disc	SD	Super density Disc
3G	the third Generation	DB	Data Base	TB	Tera Byte
AV	Audio Visual	DV	Digital Video	XP	eXPerience
BT	Blue Tooth	IT	Information Technology		

3文字には相違ないが、アルファベットの大文字で3文字からなる頭字略語とはならない例として、表4のものが見つかった。「H」については、Hの濁音とみなし1文字とした。

表4 3文字略語表 (その他)

3文字	語	3文字	語
B/S	Balance Sheet	Y2K	Year 2 Kilo(=2000)
B2C	Business to Consumer	ePF	electric PlatForm
H"IN	Edge IN	eRM	electronic Reration Management
M&A	Merger & Acquisition	iDC	information Data Center
Q&A	Question & Answer	inG	in Government

4文字以上で構成される略語は、英大文字、英小文字、数字、特殊文字などの混合でカテゴリーが煩雑となる。また、略語に日本語文字が続くものまで考慮すると、その度合いはさらに増す。ここでは、単純化に努め、次の4種分けを試みた。

カテゴリーへの分類は、下記の a. b. c. d. とし、数字、特殊文字を含むと、それぞれ別項 c. d. として分類した。

a. 英大文字のみ				b. 英小文字含む		c. 数字含む		d. 特殊文字含む	
ADSL	EBPP	HTML	NUMA	AirH ¹⁾	B2BC		CD-R		
ANSI	ESIGN	ICSP	PPRC	BtoB	MPEG2		CD-RW		
CATV	EXPO	IBEE	PRTR	BtoBtoC	MPEG4		CD-R/RW		
CDMA	FILM	IMRS	RAID	BtoG	IPv6		DVD-RAM		
CUOD	FTTH	ISDN	RDBMS	BtoM			DVD-ROM		
CWDM	GBIC	MIPS	SOAP	GtoG			GtoB/C		
DBMS	GIGAMO	MPLS	SOHO	IPSec			Hi-HO		
DDCD	GPDM	MSDS	TIFF	VoIP					
DSLAM	GPRS	MSSP	TRIPS	iMode					

5. 特殊な略語

(1) 接頭辞 e, E

略語を調査していると、「e」を先頭に冠した用語に度々遭遇する。これは、デジタルの世界と隣り合わせにいる「電子の；e(E)lectronic」という意味を持たせた用語である。

形は次の8通りに分類される。abbreviation から言えば、1文字の略字を含んだ語ということになる。(注) 丸括弧内の数字は、収集範囲 R_b における出現頻度

①E+カタカナ語

Eコマース(2) Eデモクラシー Eトレード(2) Eビジネスソリューション

②e+カタカナ語 (+漢字語)

eインフラ eコマース⁽¹⁾(2) eサーバー eネット eビジネスシステム
 eネット広告 eビジネス(8) eブック eメール(2) eマーケットソリューション
 eラーニング eマーケットプレイス(4) eマニファクチャリング eラーニングビジネス
 eプラットフォーム⁽²⁾ eマニファクチャリングソリューション ⁽¹⁾ECの表現もある ⁽²⁾ePF(カテゴリー⑦参照)

③e+英語

eCabinet eserver

④e+英語 (+漢字語)

e-ADWORLD(2) e-Engineering e-Japan e-Office e-Japan 行動計画
 e-Support e-VLAN* e-commerce e-hon e-Japan 重点計画(4)
 e-mage *ethernet-Virtual LAN

⑤e+カタカナ語

e-コミュニケーション e-コレクト

⑥e+漢字語 (+カタカナ語).

e-自治体協議会 e-自治体推進コンソーシアム

⑦e+略語 (+漢字語)

eCOOD eCRM(4) eCRM型 ePF eRM ebXML es

⑧e+漢字語

e自治体

これらを略語英字(E, e)の1字につく用語として捉えると、他にIネット, Mサービス, iモード, iディスプレイの4語が見られた。[ai]はinternetであり, Mはmobileである。

データ収集の範囲外になることを許して貰えば, e(E)を冠した略語用法は, いまや枚挙に暇がなく, 次のようなものも付記できる。

e-Business e-CRM e-ソーシング eアジア・レポート eセキュリティ eマーケット Eビジネス Eメール

(2) リンク略語

ここで, 興味を惹く略語に出会う。インターネットのサイトをリンクするように, 対象の世界と世界—それは略語である—とを結合する形をとるものである。BtoBやB2Cが, それらの代表例である。to(2)を挟んで関係する略語同士を結合している。ここでは, このようなものをリンク略語(結合略語)と呼ぶことにする。その表現形式にも色々ある。

次の2結合の場合, 「to」では4文字略語となる。「2」では3文字構成に違いないが, 数字であることから, 附表「3文字略語表」(P.270本論末尾)の新規分追加対象とはならない。

2結合: BtoB BtoC BtoG GtoG BtoM
B2B B2C B2G G2G B2M (to[tə, tu, tu:] ≡ 2[tu:])

3結合: BtoBtoC BtoBC BtoB/C GtoB/C

この3結合で, 前3者はいずれも同格で用いられる。ただ略語としての短縮力だけで測ると, BtoBCが最短である。本来の意味提示には, BtoB/Cが明解であるが, GtoB/Cも含めてその結合様式を, いま少し考察してみたい。

問題は, BtoBtoCと表記した場合, その結合は, 図1(次頁)のどれを意味するであろうか。英語の前置詞としてのtoとしては, 各種の用法がある。例えば, ①《目標地点・接触》…へ, ②《相対的位置》…に対して, ③《関係の対象》…に対して, などである。いずれを適用してもおかしくはない。ここでは, ③の「関係の対象」としてtoは,

「対」(①こたえる ②向き合う ③相手になる ④2つのそろい 例: B対B)

で結ばれている、と解釈するのが妥当であろう。

図1には、理解の容易さから矢印を一方のみにしたが、相互に関係する観点からは、図2のように両矢印とみなして差し支えはない。

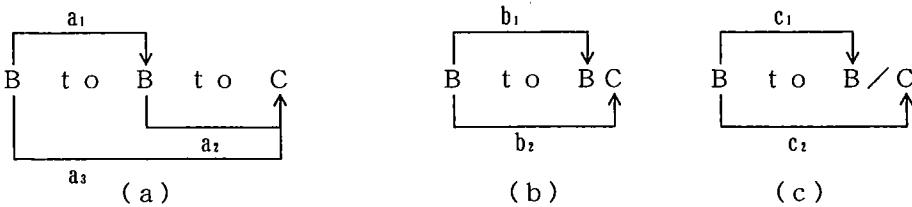


図1 to 結合

a_1 は自明である。 a_2 についても問題はなかろう。問題は、 a_3 である。「to」で結合された場合、第2文字「B」を媒介して a_3 の結合に対する合意が得られるであろうか。

(b)の場合で見ると、 b_2 の結合に異存はなかろう。それは、(c)の場合でも同様である。しかし、逆に第2文字と第3文字での「B」と「C」の結合は、ない。その意味では、(b)と(c)は同一表現とみなしてもよい。その点、(a)とは異なる。

なお、「B/C」から「B」と「C」間に結合が生じているとはみなさない。そこでの、「/」は(virgule)で、「または」程度の意味しか含ませていないとみるべきである。

さらに、BtoB/CとGtoB/Cを比較してみると、toを挟んで前者は同種の対象間、後者は異種間のつながりを示している。

さて話を元に戻して、(a)の場合、第1文字と第2文字が同一であるから a_3 の成立如何に拘わらず、 a_2 での成り立ちから、 a_3 は形式上成立したも同然である。しかし、GtoBtoCを想定できるとするなら、 a_3 の成立是非によっては、状況が変わる。G→Cの成立は、

(a)の場合、第1文字と第2文字が同一であったから、特殊なケースとみなされる。こうしてみると、(b)、(c)でいうtoより後の「B」と「C」との関係は、謳われていないとみなすのが妥当で、しかも、 a_3 は a_2 による成立を前提にすれば、(a)と(b)(c)とでは、本質的な違いはないといえる。

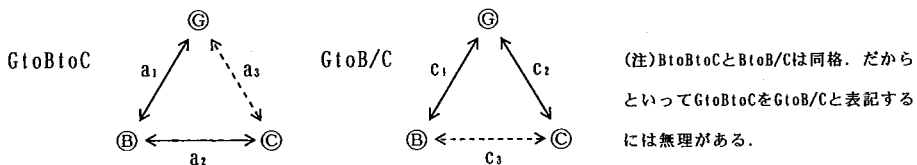


図2 to と / の相違

しかるに、GtoB/Cは、GtoBtoCと表現できるか。これは、意味の相違を生ずる。結果として、第1文字と第2文字が異種であれば、a₃の成立には慎重さが求められる(図2参考)。

日本語の場合、AさんとBさんとCさんは、…と表記すれば、これは、3人が互いに同格的な位置関係にあると想定する。同じ「ト」でも役割は違うもので、興味を惹かれる。

なお、(b)のBtoBCの場合、BCはBusiness CustomerとかBusiness Consumerとかのようなものの略語も思いついた。となれば、(a)との同格性については、最早失せる感がする。

おわりに

略語に対する考察を、最近の資料(DC)データを元に行ってみた。技術の進歩に並行して新語の誕生は必至であり、それに伴う略語の発生も自然の成り行きであろう。今回は、BtoBtoCのような興味深い略語に出会った。略語は、元語の解説なしで用いられてこそ、はじめて略語の地位を確保する。機会があれば、そのようないわゆる独立性とでも呼べるような「略語のもつ力」についての考察を試みてみたい。

引用・参考文献

- 1) 井上弘行, 倉敷芸術科学大学紀要第6号, PP.231-33, 2001年
- 2) Kate Behan, Diana Holmes, Understanding Information Technology, 2nd ed. (Australia: Prentice Hall, 1990), P. 1
- 3) "Report of the high-level panel of experts on information and communication technology," Fifty-fifth session, 22 May 2000, General Assembly Economic and Social Council, P. 4, 6
- 4) 武部良明著, 『文字表記と日本語教育』, PP.280-81, 凡人社, 1991年
- 5) Arnold Burdett on behalf of the Party, ed. by The British Computer Society Schools Committee Glossary Working Party, A Glossary of Computing Terms, 9th ed. (Singapore: Addison Wesley Longman Ltd., 1998)
- 6) インタープレス版, 『科学技術略語大辞典』, (株)アイピーシー, 1988年

附表 3 文字略語表 (新規分)

ATR	Automatic Toner Repressure	MMC	Multi Media Card
BOM	Bill Of Material	MNS	Mobile Network Solution
CIM	Common Information Model	MSP	Meter Service Providers
CMM	Coordinate Measuring Machine	NOS	Network Operating System
CMS	Contents Management Service	NPO	Non Profit Organization
COD	Capacity On Demand	NSP	Network Service Provider
CPG	Consumer Packaged Goods	OCW	Open Course Ware
DCM	Demand Chain Management	PDM	Products Data Management
DDS	Digital Data Storage	PIM	Print Image Matching
DMD	Digital Micromirror Device	PLU	Price Look Up
DRM	Digital Rights Management	POI	Point Of Interest
DSL	Digital Subscriber Line	RDH	Ricoh Document Highway
EUR	End User Report	SCP	Supply Chain Planning
FPD	Flat Panel Display	SDI	Serial Digital Interface
FWA	Fixed Wireless Access	SIM	Subscriber Identity Module
HFC	Hybrid Fiber Coaxial	SKU	Stock Keeping Unit
ITC	Integrated Traffic Control	SMB	SMAll Business
ITC	Information Technology Coordinator	SOI	Silicon On Insulator
KPI	Key Performance Indicator	SSP	Storage Service Provider
KVM	Keyboard Video Modem	TLD	Top Level Domain
MAN	Metropolitan Area Network	TMS	Transportation Management System
MCC	Multiple Communication Controller	TPO	Time Place Occasion
MFP	Multi Function Printer	UHB	Ultra High Brightness
MIS	Mobile Information Server	VOC	Voice Of Customer

Initialisms of Abbreviated Words Concerned with Information Technology

Hiroyuki INOUE

Library,

Kurashiki University of Science and the Arts,

2640 Nishinoura, Tsurajima-cho, Kurashiki-shi, Okayama 712-8505, Japan

(Received September 28, 2001)

Initialisms are expressed in the form of combination of some letters. They are usually composed of 2, 3 or more than 4 letters. We picked them up from “*The DC: Data Communication.*”

In this paper we showed a variety of abbreviated words. And as a result of investigation, we found out several patterns of both E(or e) and e- + some kinds of words.

The examples are as follows :

Eコマース (Ecommerce)

eCabinet

e-Office

e-自治体協議会 (council of self-governing body)

About the combinations of the patterns mentioned above, some various characters and letters such as “Kanji,” “Katakana” are continued instead of English words as shown there, in Japanese world in particular. Those combinations, according to the abbreviated words which appear in “*The DC,*” can be classified into eight types.

We also described about differences between BtoBtoC and BtoB/C. Through the examination we came to the conclusion that GtoBtoC and GtoB/C cannot be regarded as the same.

Finally, we showed the new table of 3-letter initialisms in addition.